

会長就任にあたって

日本病院薬剤師会会長
武田 泰生 Yasuo TAKEDA



この度、第69回通常総会において、会長2期目として再任することをご承認いただきました武田でございます。微力ながら引き続きその重責を担い、日本病院薬剤師会（以下、日病薬）の発展と会員の皆様のご期待に応えられるよう全力で職務を遂行して参りますので、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

日本の医療は大きく変わろうとしています。近年の少子高齢化に伴う様々な問題に対応すべく、現在、社会保障・税一体改革が急ピッチで進められており、そのなかでも医療・介護の分野では、地域の特性に合わせた病院の機能の分化と連携、地域包括ケアの構築を両輪として、チーム医療の推進と在宅医療への展開が期待されています。薬剤師が病院機能に応じた職能を発揮し、各々の地域の実情に合わせて、お互いが連携してシームレスに薬物治療管理をつなぐ、この体制を構築することが、患者個々に最適な薬物治療を提供する礎になると考えております。入院患者、外来患者、そして在宅医療を受ける患者すべてに対して、各々の患者に最適な薬物治療を提供し適正に医薬品使用サイクルを回すことが、今後、求められる次世代型薬物治療管理といえるのではないのでしょうか。薬剤師が医師の診察前に服薬状況の確認や薬物治療の効能効果、副作用を確認し、その情報を正確に医師に提供することが、よりの確な診断を可能にし、そして的確に診断されてこそ最適な処方設計へとつながります。このように、薬剤師が医師の診断前から診断後の処方設計支援までかかわり、医薬品適正使用を正確に繰り返すことが、患者にとって最も効果的で安心・安全な薬物治療となります。

この2年間、シームレスに薬物治療管理を提供できる体制の構築のために都道府県病院薬剤師会と連携して、「薬剤師職能の拡大」「資質の向上」「薬剤師不足と地域偏在の解消」を3つの柱として様々な取組みを行ってきました。今年度の診療報酬改定では、これらの取組みを評価していただいた報酬体系になっていると思います。外来化学療法に関して新設された「がん薬物療法体制充実加算」は、医師の診察前に薬剤師が介入することによって、患者状態を事前に把握し、医師に伝達することで、診断と処方設計をより適切に行うことが期待されます。まさに医療安全の向上とタスク・シフト/シェアに対する評価です。今後は、この外来診療への参画を、がん化学療法に留まらず、HIVや救急外来などの特殊外来へと薬剤師職能の拡大を図りたいと考えています。一方、新設された「薬剤業務向上加算」は、新人薬剤師の教育研修体制の構築と、ベテラン薬剤師の地域出向による支援体制を組み合わせた、まさに我々が描いたシームレスな薬物治療管理体制の構築を後押ししていただく施策になっています。

日病薬は今期体制においても、都道府県病院薬剤師会と密に連携しながら、病棟薬剤業務のさらなる推進と職能拡大のための取組みを今後も継続して進めて参ります。さらに、薬剤師不足や地域偏在の問題についても全力で取り組んでいく覚悟です。是非とも会員の皆様の、引き続きのご支援とご協力を賜りますよう、どうぞ宜しくお願い申し上げます。